



# すべてのステークホルダーの 皆さまとの絆を深めながら、 ともに成長し続けてまいります。

### グループの基本使命を胸に刻み被災地域の 復興、活力ある社会づくりに貢献する

このたびの東日本大震災で被災された皆さまに心よりお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

私たち三菱地所グループの基本使命は、「住み・働き・憩う方々に満足いただける、地球環境にも配慮した魅力あるまちづくりを通じて、真に価値ある社会の実現に貢献する」ことにあります。災害に強く安全な社会、環境と共生する社会の実現が何よりも望まれる今だからこそ、私たちはこの基本使命を、果たすべき社会的責任の基盤として強く胸に刻み、グループの力を結集して被災地域の復興を継続的に支援していくとともに、活力ある社会づくりの一助となるよう努めてまいります。

### 「丸の内再構築」を通じて「環境」「安全」における 最先端のまちづくりを追求

三菱地所グループのまちづくりを象徴する、基本使命の実践ともいえるプロジェクトが、「丸の内」の再構築です。

私たちは、1894年に丸の内初の本格的なオフィスビル「三菱一号館」を建設して以来、日本経済の中核を担うエリアの開発・再構築に一世以上にわたって取り組み、それぞれの時代におけるイノベーションを通じて最先端の都市機能を実現してきました。

1998年から始まった「丸の内再構築」では、第1ステージとして東京駅周辺の再開発を進めることで、街の活気と賑わいを創出し、2008年からの第2ステージでは、さらなる「拡がり」と

「深まり」へ進展させる中で「三菱一号館美術館」を開設して歴史や芸術、文化の発信拠点としての役割を加えるなど、新たな価値創造を開始しています。

再構築プロジェクトでは、こうしたイノベーションと併せて、「環境との共生」に注力しています。個々のビルで最先端の環境対策を施すことはもちろんのこと、地域全体を視野に産官学民が連携した環境共生型のまちづくり推進組織を立ち上げ、ハード面、ソフト面のさまざまな環境の取り組みを進めています。また、グループ全体で取り組んでいく姿勢をより明確にするため、「三菱地所グループ長期環境ビジョン」を策定するとともに、取り組みの発信力強化、社内外の環境意識向上をめざし、環境スローガン「街の力を、地球の力に。」を定めました。

地域単位での取り組みは、「安全なまちづくり」にも活かされています。建物の防災対策を強化するだけでなく、総合的な防災訓練や大規模災害時の地域連携などソフト面での対応も強化してきました。こうした準備は、今回の地震に際して、帰宅困難者の受け入れなどの場面でも大変役に立ちました。三菱地所グループにとって、「環境」「安全」を徹底することは、企業の存続に不可欠な条件であると同時に、新たな成長への原動力でもあります。今後も時代の先端を行く施策を取り入れながら、丸の内を日本の「環境共生都市」「防災都市」のショールーム的な存在にしたいと考えています。

### お客さまの想いを掘り下げていくことで まちの魅力を一層深めていく

こうしたまちづくりを長期的な視点から着実に推進していくために、三菱地所グループは、2011年度からの中長期経

営計画「BREAKTHROUGH 2020」を策定しました。計画では、「都市の未来へ、世界を舞台に快適な空間と時間を演出する企業グループ」という長期ビジョンを掲げるとともに、「Innovative」「Eco-conscious」「Customer-oriented」「Global」「As One Team」という5つの「Value」とその「Action」を打ち出しました。

この中で、常にお客さまの目線に立ち、お客さまが必要とする価値とは何かを考え続けること、それが「Customer-oriented」の姿勢です。いいビルやいいマンションを作れば喜んでいただけるということではなく、お客さま一人ひとりの想いを掘り下げようという私たちの想いと、それを使ってくださるお客さまの想いがうまくつながるようなまちづくりをしていくことが、三菱地所グループの魅力を一層深めていくことになると確信しています。

---

## 日本の都市の国際競争力を高め 経済・社会の活性化に貢献

「Global」という観点では、海外の企業や人を含めた資本を日本に呼び込む「out-in」、日本から海外市場へ進出する「in-out」の両面でのグローバル化を積極的に推進し、日本の社会・経済の活性化に貢献したいと考えています。

「out-in」の面では、海外の企業や投資家、観光客などを呼び込むために、日本の都市の価値や魅力を向上していく必要があります。例えば丸の内では現在、外国人向けの医療施設や金融教育・交流センターなどを開設する計画を進めていますが、今後もさまざまな形で都市機能の拡充を図り、国際競争力の強化に努めてまいります。

一方、「in-out」の面では、欧米に加えて、成長著しいアジアの主要都市においてオフィスビルや商業施設、マンションなどの開発を手がけています。現地の企業などと信頼関係に基づいたパートナーシップを結びながら、文化や風土に根ざした事業に取り組み、国内同様、まちづくりを通じた現地社会への貢献をめざしていきます。

---

## “As One Team”としてグループの力を結集し より大きな価値を創造していく

こうした取り組みを支えるのが、三菱地所グループのバリューチェーンです。三菱地所グループは、企画・開発、リーシング・販売、施設の運営や維持管理、エリアマネジメントなど

包括的なまちづくりのノウハウを有しています。

私は、このバリューチェーンとそれを支える人材の力を、“As One Team”として、すなわち会社や部門組織といった枠を超えて一つにまとめ、より大きな価値を創造していくことが経営者の務めだと考えています。2007年度から始めている若手・中堅社員が経営課題について議論し、経営トップに提言する部門横断活動「クロスセクショナル・タスクフォース(CST)」を、2011年度からはグループ会社社員にも広げましたが、これもグループの力を結集していくための施策の一つです。また、2010年度から展開している「三菱地所を、見に行こう。」の広告展開もCSTの成果ですが、一般消費者の皆さまに対してグループ一体となって向かい合っていることを紹介することを目的の一つとしています。

---

## 経営資源を活かした 新しい社会貢献活動の推進

“As One Team”としての活動は、経営資源を活かした社会貢献活動でも実践されています。2008年から山梨県北杜市を拠点に取り組んでいる都市農山村交流「空と土プロジェクト」は、社員だけでなく、丸の内エリアの就業者や住宅部門のお客さまなどにも参加いただきながら、山梨県産の木材や食材を三菱地所グループの事業活動に結びつけることなどで、地域活性化の一端を担っています。

---

## 人や社会を想い、つながりをもつことで、 活力と成長をもたらす企業グループへ

三菱地所グループは、これからも、この「人や社会とのつながり」の重要性をグループ全体で認識し、お客さまや社会のニーズに応じていく上で「コンプライアンス」を経営の最優先事項と位置づけ、引き続き徹底していきます。そして「人を、想う力。街を、想う力。」のブランドスローガンに込めた三菱地所グループの心が確実に伝わるよう、社会を構成するすべてのステークホルダーの皆さまとの絆を深めながら、活力と成長をもたらす企業グループをめざしてまいります。

2011年9月

三菱地所株式会社 取締役社長

杉山 博寿